

# 事業評価シート

番号 0840120 - 001

## 【1.基本情報】

事業名	斎苑業務委託				
担当部名	市民生活部	担当課名	斎苑		
未来地図政策	都市づくりを支え推進する行財政運営		政策コード	7 - 5 - 0 - 0	
実施方法	委託(民間)	補助の種類※	実施主体	(株)ビル管理システムほか	
実施期間	平成18年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	斎場の安定した運営				
事業の内容	建物及び設備の保守・管理、受付・案内業務、休日・夜間管理、清掃、駐車場整理等				
事業の対象	何を	斎苑			
	誰に (対象者・対象者数)	利用者			
	どのくらい (具体的数値で)	12,886人			
令和2年度 (実施内容)	建物及び設備の保守・管理、受付・案内業務、休日・夜間管理、清掃、駐車場整理等				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	24,726	780	26,520	780	25,350	780
パートタイム(嘱託職員)	21,424	2,080	21,632	2,080	21,424	2,080
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>46,150</b>	<b>2,860</b>	<b>48,152</b>	<b>2,860</b>	<b>46,774</b>	<b>2,860</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		140,847	175,071	116,620
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	修繕・工事	20,430	54,947	6,717
	業務委託	52,244	55,601	58,170
	光熱水費	60,576	56,952	43,444
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>140,847</b>	<b>175,071</b>	<b>116,620</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	186,997	223,223	163,394

## 【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	82,888	81,021	73,377
その他			
<b>計(F)</b>	<b>82,888</b>	<b>81,021</b>	<b>73,377</b>

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	104,109	142,202	90,017

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	利用者	利用者	利用者
受益者数	13,678	13,370	12,886
受益者負担額(千円)	82,888	81,021	73,377
受益者負担率(%)	44.3%	36.3%	44.9%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,611	10,636	6,986

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開館日数	単位	日
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	303	305	302
実績値	303	305	302

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	管理不備による休業日数	単位	日
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	0	0	0
実績値	0	0	0
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	必要不可欠な施設である。  火葬場の経営主体は、原則として地方公共団体とされている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	受付業務など、民間の専門業者を活用することで、合理的、経済的で確実な施設運営を行っている。  指定管理者制度を取り入れている地方公共団体もあり、今後検討していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	管理不備を原因とする休業日がなく、確実な施設運営を行えている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	火葬場や式場の料金は、中核市など他都市の料金と比較して妥当な範囲の金額と考えるが、今後も市民の意見や他市町村の状況等を注視していく。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	今後も合理的、経済的で確実な施設運営を図っていく。

# 事業評価シート

番号 0840120 - 002

## 【1.基本情報】

事業名	斎苑残骨灰処理業務委託				
担当部名	市民生活部	担当課名	斎苑		
未来地図政策	都市づくりを支え推進する行財政運営		政策コード	7 - 5 - 0 - 0	
実施方法	委託(民間)	補助の種類※	実施主体	(株)三豊	
実施期間	令和2 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	残骨灰の処理を遺族及び市民感情に配慮し、適正に行うとともに、残骨灰に含まれる有価物は市に返還をうけ、歳入の確保を図る。	
事業の内容	岐阜市斎苑から発生する残骨灰を遺族及び市民感情を損なわないよう配慮し、最終供養地に至るまでの一連の作業を適正に処理するとともに、分別処理工程において生じた有価物を抽出し、市に返還させる。	
事業の対象	何を	残骨灰から抽出される有価物
	誰に (対象者・対象者数)	利用者
	どのくらい (具体的 数値で)	12,886人
令和2年度 (実施内容)	岐阜市斎苑から発生する残骨灰を遺族及び市民感情を損なわないよう配慮し、最終供養地に至るまでの一連の作業を適正に処理するとともに、分別処理工程において生じた有価物を抽出し、市に返還させる。	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		0	
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
<b>計(A)</b>	0	0	0	0	0	0

### (2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
<b>直接経費 【直接事業費】 (B)</b>			1,349
<b>直接事業費の主な内訳</b>			
項目 業務委託			1,349
<b>減価償却費 【施設管理】※ (C)</b>			
<b>計(D)=B+C</b>	0	0	1,349

### (3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
<b>総事業費(E) =A+D</b>	0	0	1,349

## 【4.収入】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
<b>収入内訳</b>			
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	0	0	0

## 【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
<b>市負担額一般 財源(E-F)</b>	0	0	1,349

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者			利用者
受益者数			12,886
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)			0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			105

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	残骨灰の量		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			14
実績値			15

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	返還を受けた有価物の売却益		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値			3,500(令和3年度売却予定)
実績値			—
達成状況	—	—	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	必要不可欠な業務である。  火葬場の経営主体は、原則として地方公共団体とされている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	返還を受けた有価物の売却益を活用し、安定した施設運営が図れる見込みである。  他都市の対応状況を参考にしながら、今後検討していく。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	返還を受けた有価物の売却益を活用し、安定した施設運営が図れる見込みである。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	業務委託料については、今後も他市町村の状況等を参考に、適正な積算金額の設定に努める。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	現状維持	遺族及び市民感情を損わないよう配慮し、適正に残骨灰の処理を行っていく。